

令和 7 年度第 4 回
新宿区外部評価委員会第 1 部会 会議概要

< 開催日 >

令和 7 年 8 月 20 日（水）

< 場所 >

本庁舎 6 階 第 3 委員会室

< 出席者 >

外部評価委員（5 名）

竹内真雄、戎井一憲、風間義民、大川内初実、大西秀明

区職員（3 名）

西澤副参事（特命担当）、奥井主任、西崎主任

< 開会 >

【部会長】

それでは、定刻になりましたので、ただいまから第 4 回新宿区外部評価委員会第 1 部会を開催します。

本日は評価の取りまとめとして、計画事業、経常事業に対する評価を取りまとめ、それらを踏まえ、テーマの評価結果を取りまとめます。

それでは、議事に入る前に、本日の配付資料の確認をお願いいたします。

【事務局】

では、本日の配付資料の確認と説明をさせていただきます。

お手元、本日お配りしてありますクリップ留めの、まず表紙につけさせていただいているのが、A4 の 1 枚資料、次第ですね。本日は評価の取りまとめについてという議題で進めさせていただきます。次第の次におつけしておりますホチキス留めの資料が、外部評価チェックシートになっております。こちら、1 つに全部まとめてホチキスにしておりますけれども、1 枚目がテーマ別評価、おめくりいただいて計画事業 29 のチェックシート、それ以降は経常事業のチェックシートというふうになっております。両面印刷です。

少しこの時点で補足をさせていただきたいんですけども、1 枚目を例えばおめくりいただきまして、いただいたご意見の一部を青い文字にさせていただいているんですけども、青く色づけさせていただいている部分というのが、テーマに対する評価や事業そのものに対する評価というよりも、評価シートの書き方ですとか、今年の試行、やってみた感想といった、どちらかという行政評価自体のやり方についてのコメントをいただいている部分を青文字にさせていただいております、この青文字にさせていただいた部分は、ホチキス留

め資料の一番最後のところに外部評価チェックシートの行政評価手法への意見というシートをつくらせていただいております、こちらにご意見再掲をさせていただいております。まずは事業やテーマに対する部会としての評価の取りまとめを今回行っていただきたいんですが、それが終わりましたら、最後に今年新しい手法をお試しで試行しておりますので、本年度の外部評価の作業を通じて、皆様お持ちになったご意見ですとか感想とかというのを伺いできればなと思っておりますので、ご承知おきいただければと思います。

資料の確認については以上となります。

過不足ございませんでしたでしょうか。よろしいですか。では、以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、評価の取りまとめに入りたいと思います。

委員の皆様には、外部評価チェックシートが配られています。このチェックシートは、各委員の評価や意見が記載されていますので、これを基に部会としての評価の取りまとめを行います。示されたご自分の評価や意見の補足説明等お願いします。

評価の取りまとめは事業ごとに行います。

初めに計画事業について、29 の高齢者や障害者を対象とした福祉防災の充実の評価の取りまとめを行って、その次に経常事業について評価の取りまとめを行います。最後に、一番最初に戻ってテーマについて評価の取りまとめを行いたいと思います。

それで、進め方なんですけれども、評価の計画以上、計画どおりというのは、多数決で一番多くの人が採用したのを、基本採用したいと思います。それで、事務局に考え方を示した上でまとめさせていただいて、それを後でチェックさせていただく考えでどうかと思っております。そんな進め方でよろしいでしょうか。

最初に私のほうから、高齢者や障害者を対象とした福祉防災の充実なんですけど、予定した7施設、高齢施設4、障害施設3について課題の分析、あと福祉避難所開設キットの作成・納品、図上演習、訓練等を漏れなく実施したためとしております。

29 のところで自分の考えをちょっと。1枚めくったところですね。順番に、時計周りでおっしゃっていただきます。

【委員】

29 番ですね。ここに書いたとおりで、計画どおりこなして、計画どおり行っている、計画どおりにしましたということです。そのほかは特にはないです。

【部会長】

計画が適正かどうかは別にして、計画どおりやっているから計画どおりってせざるを得ないと。

【委員】

問題があるようにも思えなかったの、はい、そうですね。

【部会長】

【委員】

それから、高齢者施設というのをよく考えてみると、高齢者施設こそ先延ばしにするというのが、計画どおりって評価できないんじゃないかと思いますね。高齢者施設こそ目標も高く設定しなきゃいけないのに、目標数を減らしている上に高齢者施設数を減らしているということは、おかしいんじゃないかと思っています。

【部会長】

【委員】

【委員】

僕のほうは、今後の取組のほうにちょっと書かせていただいています。

【委員】

【委員】

【委員】

3

者制度が5年に一度だから引継ぎが大変だと。それからもう一つは、福祉開設キットがたしか工学院だったか、簡単に言うと、マンパワーが年間10件しかないからという理由があったんで、それは僕、理解できましたけれども、さっきも申し上げたけれども、それって内輪の理由で、さっきも言うけれども、企業だったら、企業というかほかの団体だったら、自分たちができないからできませんというのは、何かいま一つですよ。何かこういうふうにしたら改善できるというのを言ったらいいんじゃないかなと思って、また後半にずれちゃいますけれども、いろんな意見は提案したので、できたら、ちょっと私だけ話しちゃうとあれだけ、この1部会でも、こうしたらできますというのを提案してあげたら親切なんじゃないかなと思いますね。

何か、できていませんだけじゃ、評価委員としては何か、できていませんと言うだけで、あれが限界だというニュアンスを受け止めたから、課長さんが思いつかないことは、私たち、それこそ外部の意見を言ったらいいんじゃないかなと思って。

ちょっと話流れますけれども、私は計画以下にしましたけれども、皆さんが計画どおりなら、それに従います。

【部会長】

その場合でも、お二人の意見を持ってもらって、方向性に対する意見と別に、その他の意見・感想等にも、工学院大学以外との連携も。

【委員】

書きましたよ、その他意見に、それは。

【部会長】

載せるって生かし方もあるかなと思う。

【委員】

何か第1部会、せっかくこれ、ほかの部会に比べたら割と量が少ないじゃないですか、第1部会、ちょっと自分で言うのもあれだけれども。だから、第1部会はちょっと、いいとか悪いとか言っているより、区の方が思いつかないことを言ってくれているんだぐらい踏み込んだらどうなのでしょうかね。

【部会長】

報告書に具体的な工学院とかって書くのは、避けたほうがいい感じでしょうか。

【委員】

僕は運営事業者って書きましたよ、委託先の運営事業者というふうに。また今度、工学院に対するバッシングみたいになってもあれだから、僕は、委託先の運営事業者という表現にしました。

【部会長】

その辺も踏まえて、4人が計画どおりで、計画どおりにしたくない委員の方もおられるかもしれないですけれども、全体的に計画どおりにしても、その他の意見だとかにちょっと、第1部会の意見として、ほかの会社、工学院以外にも連携してみてもはとかと入れる感じで。

【委員】

何度も繰り返しになりますけれども、多数決だから、皆さんが計画どおりだったら、それで何も不満はありませんけれども、一応それは言っておかないといけないから。

【部会長】

言ったほうがいいと思います。

【委員】

多数決でやるものと、一応この外部評価というルールにのっとったらこうですよというのがあるんですよね。

おっしゃることはもっともで、僕も意見、全く同じなんです。ただし、これは外部評価のフォーマットにのっとったジャッジをするということなので、計画どおりとかにせざるを得ないと僕は思っていて、それで、今後の取組とかその他意見のところに、思ったことを全部可能な限り書けばいいかなと思いました。

【部会長】

令和 6 年度の評価ですけれども、数年間の目標があって、中期計画があったのに、都合がいいように令和 6 年度の計画をやったから、そのとおりにやってもというときにちょっとどうするかというのは、論点にもなると思うんですけれども、難しいところですね。

【事務局】

あくまで内部評価としては、6 年度の当初に立てた計画、もしくは 6 年度の計画であるというふうになっているものが達成できたかというふうなところで見るので、そういった意味では達成ができたんですけれども、ただ、おっしゃっていただいたとおり、自分たちができる範囲というものに合わせた計画立てというふうなこと、計画を自分たちのできるキャパシティに合わせて変更しているという部分もあるという事業、実はほかにもありまして、第 2 部会のほうでも似たようなところで、当初の計画どおりと言えば計画どおりなんですけれども、そもそも事業として順調なのかどうかというのが、それはまた別の話になるんじゃないかというような議論があるものもありまして、ですので、そっちはまた取りまとめ会が別なのでどちらになるかが決まっていらないんですけれども、少なくとも同じようなご意見は挙がるかなと思っています。

それについては、例えば、これを計画以下とするのであれば、計画以下というふうにした理由としてはこういうことだというふうに、部会としてその評価にした理由というものを、筋の通ったものを入れていただければ問題がないと思っているのと、あと、これを計画どおりというふうにすることについては、計画どおりというふうにはしているけれども、そもそも計画の在り方については、事業の計画の立て方については意見があるということであれば、今後の取組の方向性ですとかというところで、そういう計画の立て方についてのご意見ということで意見をいただくというのがいいのかなというふうに思います。

【部会長】

その評価時期の問題については、最後の行政評価手法への意見にもちょっと入れたらど

うかと思っています。

【委員】

今の計画どおりか計画以下かという問題ですけれども、私のところ、一番下に予算現額と執行率というふうに一応書いてあるんですけれども、令和6年度のそもそもの計画って7か所というふうに計画しているんですね。それで、達成率は100%になっていると。

どうしてかという、予算があるんですよね、その年度ごとに取った予算が。その年度の予算を超えて、2倍も3倍も急につくるわけにもいかない、これがやっぱり現状だと思うんですね。だから、年間7か所、また、来年度は10か所ですかね、プラス10か所で17か所、その次が、これ26か。だから、プラス9か所で36と。最終的に34か所、令和9年度に34か所というような計画を立てているもので、その年度ごとに予算を取って活動しているということで、ちょっと、本当は一度にぼんとたくさんやりたいんでしょうけれども、その予算の関係上、なかなかそこまではできないのではないかなというのを考慮して、今年度、6年度は計画どおりというふうに、私もさせていただいたんですけれども。

そこらもある程度理解してあげないと、遅れとるじゃないか、遅いじゃないかというだけでは、区のやっぱり運営している、執行している部署にしてみれば、やはり予算もあるし、本当はやりたいのは様々でしょうし。

先ほどの避難所開設キットですね、福祉避難所開設キットというのを今回から新しく導入されているんですけれども、それが、工学院大学というのは、危機管理課長も言っておりましたけれども、やはり通常の避難所の開設キットも工学院大学がつくって納入しているんですね。という、それに見習って福祉避難所もつくっていると。多少は青いのとかが、オレンジでしたっけね、何か増えていましたけれども、そういうのを見習ってつくっている、工学院大学がそういう避難所開設に当たってのノウハウに精通している人が多かったということで、協力をいただいているということでもあるんでしょうから、これを入札制度みたいにどこにするかというふうに競争させてやるのも1つかとは思いますが、やはりその入札を取るまでにはいろいろと計画やお金もかかるでしょうから、精通している工学院大学にお願いしているというような、ちょっとご説明もあったと思うんで、それを踏まえたときには、私は工学院大学監修というふうに書いたんですけれども、それもやむを得ないのかなというふうにして、計画どおりというふうにさせていただきました。

長々とすみません。

【部会長】

ありがとうございます。工学院のキャパと言わずに、予算のキャパって説明してくれていたらよかった話な気がしますね。

【委員】

何かあのときの話だと、予算プラス人員を言っていましたよ。マンパワー、工学院の学生を使ってやるからというふうに、お金だけじゃなかったですよ、あのとき。

【委員】

そうそう。お金の話、ほとんどしていなかったですね。

【委員】

そう、お金よりマンパワー。僕も書いたけれども、マンパワーっていうのが。

【委員】

お金がないって言われると、ずっと理解できるんですよ。

【委員】

すみません。私、何か自分のことばかり言っちゃってあれですけども、私は、とにかく全体を計画以下だと申し上げているんじゃないくて、ここに書いてある文章で、評価できる点は、増やしている点はすばらしいし、いろいろ努めていることはすばらしいけれども、言葉を考えて書きましたよ。

計画以下としている部分、だから、全体を計画以下と言っているんじゃないくて、こういう部分があるんだよという言い方、ちょっとさりげなく書いているようですけども、ちゃんと考えて、こういう部分も認識していただきたいという趣旨です。

【委員】

すみません。もう皆様の意見が全てだと思うんですね。

似ていまして、私も、計画どおりとはしたんですが、やっぱりその理由が、計画を実行したからっていうだけで、やはりもうちょっとこれは考えるべき課題だとは思うんですね。要は、課題自体があるところに依頼をして、その件数をこなしたから計画どおりなんだけれども、その課題でいいのかと、課題自体が問題じゃないのかなとは思ってはいるんですが、評価は計画どおりになってしまうんですね、やはり。

先ほどもおっしゃったように、高齢者の施設に対して、もっと早く迅速にやるべきじゃないかと。私もそれは同意見で、災害はいつ来るか分からないので、予算がとか人員がとかと言っているよりも、いかに迅速にそれをクリアして、いざというときに備えるかというのが、災害では絶対一番大事だと思うので、ちょっと、本当は課題を見直してほしいというのはあります。以上です。

【委員】

私も、やはり全てが計画どおりで万々歳というわけではないんです。やはりその後の意見のところとかにも書きましたけれども、やっとこの福祉避難所の体制とか取組が始まったなという印象が非常に強いんですね。今まではあまり見えてこなかったんですよ、福祉避難所、二次避難所というか、言っていたんですけども、その二次避難所の開設に当たって、どのようになっているのかという細かい部分が全然見えなくて、やっと今回、このテーマに沿って説明をいただいて、やっと始まったのかなと、まだまだ課題や体制がたくさんあるけれども、早く本来は整えてやらなくちゃいけないんですけども、そういうものがある。だけど、令和6年度の予算に関しては、計画どおりにせざるを得ないだろうなということで、計画どおりとしたんですけどもね。課題は随分あると思います。

私も書きましたけれども、老人ホームも24時間体制の入所式のところと、通所式という

か、夜は閉まっているようなところとか、そういうところとか、課題はたくさんあるんですけども、私のイメージとしては、意見のほうにも書きましたけれども、まず幼稚園とかこども園とか保育園とか、そういう区の施設を早くに二次避難所、福祉避難所として計画を立ち上げて、その後で、そういう課題のある老人ホームだとかそういうものに取り組んでいくべきではないかなというふうに思います。まだほかにも施設たくさんあるとは思いますが、そういう意味で、ちょっとこちらに書かせていただきました。

【部会長】

事務局の方たちと相談させていただいて、まとめる形にします。

【委員】

私、繰返しですけども、さっき言われたように、何か計画どおりとしておいて、最後にちょっと書くんだと、サジェスションにならないんじゃないかなと。みんなぱっと見たとき、ああ、計画以下なのと思ったら、じっくりこれ、内容を読もうとなるんじゃないですかね。

僕たちがやったことが、何かサジェスションになってほしいなという思いから言っているだけです。どうして計画以下を譲らないとかじゃなくて、後ろのほうにちょろちょろと取組に書く程度だと弱いかなって気がしますよ。さっき言われた提案の、ちょっと反対して申し訳ないんですけども。

【部会長】

今後の取組に対する方向性とその他に意見、それにばっちり書くのもありますし、あと、最後の提案についてもあれなんですけれども、令和6年度の計画だけ見るのか、3年計画、実施計画とか中期計画とか呼んでいると思うんですが、それを勝手に曲げたのを計画どおりじゃないというのもちょっと難しいかなと思っているところなんですけれども。ただ、何か言ったほうがいいのは確かだと思うので、ちょっと2つ目が今後の取組に対する方向性与其他意見のやつ併せて、ちょっと順番にご意見いただきたいと思うんですけども。

最初に私のほうから、今後の取組の方向性に対する意見なんですけれども、指定管理者対象の訓練等については、指定管理者の更新時期と訓練スケジュールと連動させというので、どのタイミングでやるのか、指定管理者がいつ変わって、変わった1年目は必ずやっていますとかという説明がちょっと聞けなかったので、連動しているのかもしれないんですが、連動させて、その時期の人数によって、変わったばかりのタイミングだとかに訓練やるようにしてもらえればというのも、ちょっと感じております。

【委員】

僕も、ここに書いていないですけども思ったのは、キットをつくるから、指定管理者が変わっても問題ないというようなことをおっしゃっていたんですね。ただ、課題としては、指定管理者が変わるときが問題だというふうに課題を書いていて、でも、それは開設キットがあるから大丈夫だとかいって、何かよく分からない。

これ、全体的に納得感がないんですよ、その説明に。工学院大学に何か特筆すべきノウ

ハウがあるだとかというふうなものを明確に言っていただければ納得できますし、予算がこれだけだからこの段階でというのだったら理解できるんですけども、ちょっと説明が足りないというか、もしくは説明すべきものがないから説明できないというふうに、僕は理解しました。

本当にこれは民間だったら、8月にこれ10セット納品となったら、納品できるところに発注するというのが民間なんですよ、というのが1つだし、10セットを調査してやるのは難しいのであれば、例えば、出来は3割、4割でもいいけれども、10セット納品してよと。古いものよりは新しいものを、何かセットがあったほうが、災害はいつ来るかわからないので、来年度に延ばすよりははまだましだろうとか、民間というか、多分民間じゃなくても、ここにいる人でも、ちゃんと考えている人は多分そう考えると思うんですよ。だから、その辺が、すごく思考が硬直していることを感じたんですね。

なので、この外部評価のフォーマットに即して言えば問題ないのかもしれないですけども、これ、僕、第3部会の傍聴をしまして、そっちのほうの問題あるんだろうと思って聞いたんですけども、逆にそっちのほうで、担当者の方とかすごく誠実に考えていらっやって、書類上からも空気感というか、すごく考えているんだなというのがあって、これはほかに書かせてもらいましたけれども、厳密な、全部コピーってなかったんですよ、結構ボリューム多いんですけども。しっかり考えているということがすごく分かって、逆に、第3部会の傍聴を先にしたからこそ、あまり考えられていないというのがすごく分かったんですね。

なので、個別に関しては、これ、工学院の特別なノウハウ分らなかったし、向こうがこの納品だからそうしました、随意契約ということなんですかね。ただ、実際にキット見ましたけれども、それは一般の避難所のキットを見ましたけれども、そんなに何かすごいと思うかという、単に取材して、この器具はここにある、この施設はここにあるということをちゃんと確認して図示しただけなので、そのやり方さえ分かれば、職員さんも、もし工学院大学でできなかったら私たちでできるんですよとかって言っていちゃったので、そこでもう論理が破綻しているんですよ。

なので、計画どおりとしたんですけども、これ、やっぱり計画以下で、ここをはっきりと読んでもらえるようにしたほうが、ちょっと意見変えさせてもらいますけれども、と思いました。以上です。

【委員】

次の取組に関する方向性のところでは、一応福祉避難所を増やす必要性は所管課も分かってくれているなというのは理解したから、あんまり責めちゃいけないなと。

だけど、僕もここに書いていますけれども、その所管課の理由が、やはり限りなく委託先の事業者の都合、限りなく。それと、新宿区民が求めていることって響かないんじゃないのかな。そんな新宿区の勝手でしょうっていうんじゃない、新宿区民だったら。

そうしたら、その自分の所管課ができる委託先の都合と区民が求めているのと、私、高齢

者を増やすことが何とかというのは、自分が求めているんじゃないくて、区民が求めているんですよ。区民が求めていることを優先して、先延ばしにしませんぐらい言ってほしかったなと。それが、今後の取組性については、所管課も区民のニーズに近づけてほしいということです。以上です。

【委員】

皆さんのおっしゃっていることは、本当そのとおりだなと思って伺っていたんですが、私はそれを全部すっ飛ばして、とにかく訓練をしてほしいと、もうこの一言に尽きたんですね。

というのは、次のところにも書いてたんですけども、旧マニュアルが今現在あると。だから、その旧マニュアルでも何でもいいので、日々の訓練がいざというときの災害を少しでもましにするって、被害を小さくするんじゃないかなと思うので、区の事情だとか大学の事情だとか、いろいろあるとは思いますが、それよりも、とにかく毎年毎年必ず定期的にと、訓練だよということを言わずに、皆さんには、とにかくいつでも、何が起ころうともできるように、そういう訓練を日々やっていただて、いざというときに備えていただきたいなというので、ここには希望しますとか、次のところは疑問形でしていくのでしょうかとか、そういう表記をしたんですけども、本当に一言、訓練だけしてほしいと、これに尽きます。

それが、たとえ新しいマニュアルであろうか古いマニュアルであろうか、何でもいいので、特にいざというときって、知識ってあんまり役に立たないんですね。いざっていうときに何が役に立つのかというと、とっさの判断というか、今までの能力なんですよ。だから、こけるときに、子どもとか最初のときは多分顔から落ちると思うんですけども、それでは危ないって、手が出るじゃないですか。今度、年いくと、手が出なくなるんですね。こけるスピードよりも、手のほうが多分遅いんでしょうかね。出そうと思っても間に合わなくて、ケガがひどくなるとかということがあるので、できる限り、いざというときに、じゃ、どうしたらいいのかって考えずに、体が動くような方向性にしてほしいなっていうのを、強く望んでおります。以上です。

【委員】

今後の取組に対する方向性の意見ですけども、私は二次避難所、この福祉避難所というのは、一次避難所にまず要配慮者は避難することになっているんですね。以前は、直接二次避難所、福祉避難所へ避難してもいいというような考え方もあったんですけども、開設をされていないので分からないから、まず一次避難所へ避難をして、その後、二次避難所が開設しましたよという連絡の下に、二次避難所のほうへ移っていただくという流れに一応なっているんですね。ということは、やはりこの福祉避難所も一次避難所としっかり連携をして、防災訓練等に当たる移動訓練等も踏まえて実施する必要があるのではないかなということもありましたので、そういう点を書かせていただきました。

それから、先ほど言いましたように、関係施設の課題という点は、まず区立の保育園とか幼稚園、こういうものを優先して、福祉避難所の開設に当たるべきであると。その後、民間の保育園とか民間の高齢者の施設とか、そういうのもありますので、それは、その後という

ふうな状況で、まず区立のほうから先にしっかり取り組んでいただきたいと。

福祉避難所が、区内 69 か所一応あるというふうに書いてあったんですけども、その体制を整えるのが令和 9 年度までに 34 か所をとというふうになって、それでもまだ半分ですよ。ですから、早く体制を整えていただきたいと、先ほどもおっしゃっていましたが、地震災害はいつ来るか分からないというので、本当に早くに整えるようにする必要がありますと。

先ほどの避難所開設キットの問題ですけども、まず、災害が起きて避難所に到達したときに、誰がどのように何から始めたらいいのかというのを右往左往しちゃって、何からしていくか分からないということで、このマニュアルみたいなものとして、この開設キットというものを、まずこれを出しましょうと。そして、これに沿って、ここに書いてあるんですよ。本部の設置場所を決定して、本部看板を取り付けると。災害用の看板を取り付ける、旗を立てるとかいろいろとあるんですけども、そういうのからやり方を羅列したものなんです。

そして、実は、この開設キットにも問題点たくさんあります。防災サポーターの連絡協議会でも、このように避難所開設キットの問題点を、これは一部の人が研究して出したんですけども、問題点にすべき点というのはこれだけ実はいろいろとあるんですね、このようにしたほうがいいというのが。ですから、完璧なものではないんですけども、まずこういうマニュアルがないと、それこそ災害が起きたら大変なことになってしまう、その、地元でいえば、町会の地域防災協議会の会長さんが来られるか来られないかも分からないんですね。やはりみんな被災しますので、どういう状況になるか分かりませんので、そうじゃない人がたとえ来ても、まず開設キットを引っ張り出して、そこから始めようということで、開設キットというの、私は必要だなと思いました、問題点はあってもですね。ですから、そういう面で、そういうものは徐々に始まってきているというのはいいのかなと。

しかし、これ、新宿区以外のよその区がこういう避難所開設キットを用意しているものなのか、全国的にそういう開設キットみたいなものがあるのか、ちょっとそこまでは私、研究していないので分からないんですけども、やはり新宿区としては、工学院大学の協力を得てこういうものがつくられたということは、一歩前進かなという評価はいたしました。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

開設キットいうものじゃなくて、マニュアルという名前で作っているところがちょっと多い印象を受けますけれども、何かマニュアルだとちょっと何百ページあったりして、すぐに分からないからというので、キットって言い方をしているのかなと思います。

ここで、評価の考え方について改めて見解を確認させていただきたいです。

【事務局】

やっぱり令和 6 年度の事業に対する評価という意味でいくと、令和 6 年度の計画の数値

としてはいじっていないので、令和6年度は最初に立てた予定の数を予定どおりこなして、確かにおっしゃるとおりフォーマットに基づいて計画どおりというふうな形になるとは思いますが、施設を減らしているとか、計画を見直しているというようなことについては、令和7年度よりも後の事業の進め方というふうなことになるので、6年度の事業については数値が見直されたということがないので、そういうふうな記載を、計画以下という評価の理由にするのはちょっと難しいかなと思いました。

この計画事業というのが経常事業と違うところは、やはりこの先数年間というのをまとめて計画立てるといふところがあるので、そのまとめて計画立てるの部分にはもちろん件数というのがありますし、予算というのがありますので、そういう意味では、ここにもう4年度分載っているように、4年間分の予算って一番最初に一応決めていまして、それを変えらるというふうになると、それなりの理由ですとか審議が、検討が必要になるんですけども。

【委員】

いいですか。僕が計画以下にしたのは、令和6年は変えていないけれども、来年、再来年の目標を変えているのは、令和6年度に変えたって書いてあったから言っているんですよ。今変えたんじゃないくて、一番最初にもらったシートに、令和6年度に計画を変更していた。だから、令和6年度中に計画を落としているからおかしいと言っているんですよ。この一番下に書いてありますよ。

私も単にやみくもに言っているんじゃないくて、令和7年度に変えたなら、それは譲りましょう。だけれども、目標とか何か書いてあるのを全部、令和6年度中に変えているんだから。

【委員】

これ、令和6年度というのは、第3次実行計画に基づいて変えたんでしょう。

【委員】

だけど、変更ね、減らしているんでしょう。

【委員】

だから、6年に変えないと、3次ですから4年間あるわけですよ。

【委員】

だから、そうしたら、令和6年度が立派だったかと言えないじゃないですか。変えたのが令和6年度中なんだから。

【部会長】

落としどころを決めないといけないので、計画どおりか計画以下かちょっと決めないといけないので、どうしようかな。計画に以下にしないと読まないというのも分かります。

【委員】

特に計画どおりとかじゃなくて、判定不能とかはオーケーなんですか。

【事務局】

過去のものと、そういう判定不能という評価はちょっとなく、何か理由をつけて計画以

下にしているか、何かしらチェックを入れていただいているので、これは判定できませんというのは、そうですね、ちょっと今までなかったケース、ちょっと想定しなかったところでございます。

【委員】

これ、外部評価のやり方からすると、計画どおりになるじゃないですか。

【委員】

よく分かります。計画どおりだと、どうせさらっと流して終わりだろうなとも思うので。

【委員】

何かサジェスションを与えたいんですよ、所管課にね。

【部会長】

落としどころとして、判定不能とか。

【事務局】

そういった意味で言うと、外部評価意見として冊子にまとめるときは、外部評価の意見だけが載るんですけども、その後に、ちょっと先になりますが、年度末に総合判断についてということで、外部評価の対象になったものについては、いただいた意見に対して区からのお返事というものがありますので、その他意見、今後の取組の方向性に対する意見として書いていただいたものについて、区からのお返事必ず差し上げる形になるので、そういった意味では、区のほうからのお返事対象にはなりません、その評価の理由じゃないところに書いていただいたものは。

【委員】

一応最後のその他意見とか、一通りやっちゃいませんか。

冒頭申し上げたように、私たち、できている、できていないというより、第1部会としては一歩進んで、こういう方法があるんじゃないかというぐらい言ってみたらどうかということで、1つの方法としては書きました。

開設キットはもう電子化とかデジタル化にする、そんな紙じゃなくて。それから、委託事業者以外に、例えば、委託している工学院以外にもマニュアルを公開したり講習したり、大学講座だって、無料講座でみんなに幅広く広げているのに、工学院だけのノウハウにしているのはおかしいですよ。だから、それを公開する。それから、マンパワーについては、工学院の学生とか知っている人がいないんだったら、地域のボランティアを募ったらいいいと思いますよ。そういう、ちょっと具体的なことまで踏み込んで言ってあげたほうが親切なんじゃないかなと思って。

ちょっと余計なことかもしれませんが、そういう、何かできない、できないだけでは、今のところ終わっちゃうじゃないですか、この調子だと。はい、できない理由が分かりました、はい、終わりでしょう、今の感じだと。だけど、第1部会の人たちは、できる理由が、区役所の人が、所管の方々が気がつかないことが、ああ、こういう方法があるんだなみたいな、何かサジェスション与えてあげたいなと思って。

工学院のは新宿区が恐らく事業、お金を払っているんだから買い取っているわけですよ。だから、それはもうオープンにして、誰でもあれは内容を見られるようにするとか、そうやってどんどん広げたら、10 か所という問題がクリアできるんじゃないかなと思って、そこまで突っ込んで書きましたけれども。

【部会長】

工学院以外のノウハウだとか工学院以外の連携も検討されたいとか、複数の業者とか、ちょっとぼかして書いて、電子化されたとかはちょっと。

【委員】

私、工学院という言葉は全く書いていません、委託している事業者。僕は工学院という言葉は全く使っていません。

【部会長】

最初の評価の段階なんですけれども、計画どおりと計画以下かっていうのがあって、計画以下にするのはちょっと厳しいかと思うので、計画どおりにして、あと、方向性に対する意見だとか、その他意見・感想で今話題に上がったようなことを書いて、複数の事業者と連携等も検討されたいとかという形で落とすのでどうでしょうか。

【委員】

僕は、結論はお任せします。

先ほど防災キットをどうしているのかって、これ、僕、第3部会の委員もやったときに、これはちょっと別分野で、新宿区でAIを使いましょうとあって、今、AIを使わせることにすごく尽力されているんですよ。それが、ここの課長さんとかは、AI使いますかと言ったら、使わないですとあっておっしゃったんですよ。

例えば今、ほかでどういうキットを使っているんですかねとおっしゃって、チャットGPTで調べたら、凸版印刷だとかスズキモダンだとか星野総合商事株式会社とかというところがもうつくっていて、徳島だったらミッション何とかとか、千葉だと何とかというふうに、同じようなものがあるんですよ。なので、これ、すぐにも工学院だけのものじゃないというのが分かりますし、中身も多分AIでひな形なんかすぐできちゃうと思うんですよ。だから、ごめんなさい、区でやりましたけれども、問題意識が非常に低いというのがあるので。なので、ちょっと、どういう文言かはお任せしますけれども、トピック自体は残していただきたいなと。

【部会長】

今言った意見、取組に対する方向性に対する意見だとかその他意見・感想にできるだけ書くのはあれで、評価自体は計画どおりと計画以下の真ん中ぐらいが欲しい感じ。おおむね計画どおりとか、何かやっぱり計画どおりにしちゃうと、あんまり熱心に読まないだろうなというのは思います。

【委員】

読まないですよ、絶対。だって、ボリュームがこれだけあるんだったら、読んでくれます

よ。10 分の 1 とか 30 分の 1 だなんて分厚くなっちゃうんだから。そうすると、計画以下だけ読もうってなるよ、大体人間の習性からして。

【部会長】

計画以下にするのがちょっと技術的に厳しいと思っているんですね。

【委員】

部会長、決めてくださいよ。

【部会長】

じゃ、計画どおりにして、あとは、ちょっと思いのたけは文書に。思いのたけをこれにもだし、1 年ごとに修正されると、その計画が正しいかどうかは誰が判断するんだとかいうことを論点にできるかと思いますし、ちょっとその方向で。

【事務局】

今の計画事業の中で少し、2 点ほど確認させていただいてよろしいですか。

基本的には、今、結局評価については計画どおりで、一応計画立てて最初からやろうと思っていたことはできたので、計画どおりというふうな理由として記載を整える形で、今後の取組の方向性ですとかその他意見のところ、ただ、そもそもの計画の設定というところの適切さがどうなのかというチェックが、そもそも行われているのかとかというところの問題提起を書かせていただくのと、こういった方法で改善ができるのではないかという提案の部分を書かせていただくのに加えて、AI のことをちょっとおっしゃいましたけれども、それも盛り込みますか。

【委員】

できれば。

【事務局】

分かりました。

あと、その他意見・感想のところに、旧マニュアルで訓練しているんですかというふうに質問を記載をしていただいておりますので、これは事前に所管のほうに確認をしております。結論は把握していないというふうなことでした。

まず、利用者の避難訓練、小学生とか中学生のやっているのは、地震が起きました、避難しましょうというので、避難訓練はちゃんとやっているらしいんですけども、避難所、福祉避難所の開設訓練というところについては、行うかどうかのところは、それぞれ各施設の管理事業者の判断というふうにしていて、本当にやりましたよという報告も特に求めているということですので、実態としてのどれだけでできているかという数みたいな実態は把握はできていないというようなことでした。

ただ、1 年に 1 回、区のほうで全体の、区役所の中での防災訓練というのが、大きな規模のがあります。そういったときに、区の管理施設のほうに状況どうですかというような、こういったことを災害時は確認する、メールとか電話で確認をしてお返事をもらうというような、災害が起きたことを想定してやるという訓練自体は、毎年 1 年に 1 回やっている

ので、そういった訓練をやっているという程度の認識ですというふうな、それ以上に個別の施設がどこまで避難所開設訓練をやっているかは、ちょっとまだ認識ができていないというふうなお返事でしたので、今ここで回答させていただきます。

すみません、計画 29 についての補足は以上です。

【部会長】

ありがとうございました。

では、経常事業 357 にいきたいんですが、女性の視点を踏まえた配慮を要する方への避難所運営体制の充実で、これ、5 人とも適切になっていて、書き方は濃淡あるんですが、マニュアルの改定が適正にできたという、ここはあまり意見が割れないかと思います。

ここで、特にご意見なければ、今後の取組の方向性に対する意見とその他の意見・感想にいきたいんですが、こちら、ちっちゃいボリュームのものをわざわざ頭出しにして評価させるのはどうかという、こちらもいい意見だと思うので、これは、別紙の方向に出させていただと。これ、ちょっとここに載せるよりは、別紙に載せたほうがいい感じしますね。頭出ししてあるけれども大したことはないじゃないかというのを、ちょっと言っておいたほうがいいと思いますね。

【委員】

ちょっといいですか。

今回は、経常事業が随分、適切だとか改善が必要とかいうので評価しているんですけども、今まで経常事業というのは、あんまりそういうのがなくて、今後の意見だとか個人の意見だとか、そういうものを中心に今までは挙げていたと思うんですけども、今回も、意見がございましたけれども、やはり変わった理由というのは何かあるんですかね。

【事務局】

今年度からの新しいやり方の手法ということで、今までは個別施策というものを評価するというふうにしていたので、それこそ個別施策の中にある計画事業、含まれている計画事業と経常事業も全てというふうにしていたのでボリュームが大きくなっていたんですが、今年からは、全てというふうな中には、システムの管理するとかそういった本当に小さな事業も含まれてしまうので、そういったものは除いて、計画事業に強く関係してくるものですか、テーマに強く関係してくるものを特にピックアップして評価しようというふうになっています。

そのため、全部の経常事業を評価するのはやめた一方で、1 つの経常事業に対する評価をもっと深めようというふうな形になっているので、去年までは、正確には経常事業の取組状況確認というふうな、評価ではない扱いだったんですけども、今年は評価を深度化したいというふうなところがあったので、経常事業についても評価というふうにしていて、ただ、去年までも適切と思うか、改善が必要と思うかというところは選んでいただいていたので、そこで、もしその他意見というのがなければ、そのまま流れていくような感じだったんですが、今回は意見がたくさん書いていただくような形になっているという感じです。

【委員】

これについては、確かに何か大々的に取り上げるのはどうかというのと、今の経常事業評価など、ちょっと似たようなあるんで、取り上げ方は考えるにしても、今回、まずこの女性の視点自体を考えたときに、僕が書いたのは、私もそうだったんですけれども、この間現地視察をして初めて理解できました。だから、文書だけだと、これ、なかなか理解できない内容ですよ。

ましてや、私は女性じゃないんですけれども、女性はもっと不安があるんじゃないかと、もっと、本当にどうなっているのか。その点、何か女性に、新宿区はこれだけ設備がそろっているんだとか、何か疑似体験してもらおうとか、あと発信、ここに書いているけれども、情報発信が足りないということを、ここに書きました。

たまたま、このシートを出した日に、NHKのニュースで見たんですけれども、これは、私もこれ参考になるなと思ったんですけども、江東区は、女性向けの避難所の備蓄品を拡充していますと。それを、NHKだとか何かネットに流しているんですよ。ああ、これは、新宿区も似たようなのやっているのに、情報発信が弱いなと思って、これだけ見ると、江東区だけやっているのに、うちの新宿区ってやっていないねって、大体の人は思いますよ。だから、新宿区も何か、私は現地に行って初めて気づいたレベルだけれども、もっといろんなことを、広報については前から言っているけれども、情報発信をもっとしなきゃいけないというふうに、僕はこれは今後の取組に大事な点だと思う、この女性の。そうしたら、女性の人も安心するし。

江東区が僕は素晴らしいなと思ったのは、江東区民だけに流していないんだよね。都民全員というか、NHKを見る人に流しているから、周りの人に安心感を与えるというのがあるから、ちょっとこれ、せっかくこういう、この評価の云々という今議論もあるけれども、もうちょっと女性に対する避難所の何かを、見なきゃ分かんないじゃなくて、写真とかYouTubeか撮って、もっと宣伝したほうがいいと僕は思っています。もっともっと、宣伝が弱い。それを今後の取組の方向性に書きましたね、もっと情報提供発信してほしいと。

どう思われますか。

【委員】

おっしゃるとおりです。

【部会長】

反対する人はいないと思うので。

【委員】

何かもうちょっとやったほうがいいような気がするんだけどもな。行ってみないと分かんないんだから。

【部会長】

こちら、まとめて1つの文章にして載せる形にできればと思います。

【委員】

分かりました。

【部会長】

その他意見・感想の、現地で理解することにつながったとかは、個人的な意見なのでちょっと消させていただいて。

【委員】

いいですよ。

【部会長】

5つの意見をまとめて1つにして、要約のような形にするのをお願いしてよろしいでしょうか。

ここで、358の福祉避難所の充実と体制強化に移りたいと思います。こちら、5人とも適切としています。

委員さんのは、適切でない、改善という必要がないという、バツはなかったみたいなニュアンスで書いている。特にご意見は。

【委員】

ないです。

【部会長】

バツがなかったから丸みたいな感じで。

358の評価のほうの要約というか、お願いしてよろしいでしょうか、まとめるような形で。

【事務局】

この評価の理由のところ。はい、分かりました。

【部会長】

あと、今後の方向性に対する意見も、こちらみんな特に問題ないことを書いているので、取組の方向性に対する意見もまとめる形でお願いしたいと思います。

あと、その他の意見・感想で、コピペはやめてくださって意見、確かに書いたほうがいい感じ、これは、後ろのほうにまとめて書いて。

取組の方向性に対する意見も、要約のような形で事務局にお願いしようと思うんですけども、特に言っておきたいこととかありますでしょうか。

【委員】

これ、外部評価なのかどうかあれなんです、要は、先ほどのキットのもそうですし、ここでもあんしん手帳とか、物を作って配りました、その後ちゃんとケアできているのかなというのがいつも気になっていて、配って、郵送しているので、その後、本当に書いているのか、ここに書いたんですけれども、本当に記入をされているのか、それをちゃんとふだんから携帯するように指導しているのか、そういうところのフォローをしっかりとやっていただきたいというのがあります。

せっかくいいものを作っても、持っていなければ何の意味も持たないし、本当にいつどこで何があるか分からないので、必ず家にいるとは限らないと思うんですね、高齢者の方とか

障害者の方も含め、女性も。皆さん、とにかく常にバッグの中に身分証やお金と同じように持っていて、何かあったらそれを見て対応できるっていうふうな指導というか、ケアをしっかりしていただきたいなっていうお願いになるんですけども、その点、よろしくお願いします。

【部会長】

多分なんですけれども、周知以外のことはなかなか難しいんで、ちょっと私のほうでそれを踏まえて書いているのが、民生委員や事業者、関係者と連携して、こういう区役所から来たけれどもちゃんとやっていますかとか、持ち歩いていますかとかって声かけしてもらうような形。

【委員】

そうですね、声かけでいいと思います。とにかく、ほったらかしはやめてほしいなと思います。

【部会長】

送った3か月後に、本当に書いていますかってまた送るのもあれだから、ちょっと誰かにお願いするしかない感じですか。

【委員】

だから、関係者というか、必ずそういう方って誰かサポートつきますよね、民生委員なり何なり、福祉関係の方が。そういうついている方が、ちょっとしたときに会話で、こういうのちゃんと持っているとか、届いていたとか、記入したとか、ちょっとした声かけが1つの本人への意識づけというか、きっかけになると思うんですね。とにかくきっかけが大事だと思うので、そういう方と接する人たちがそこを意識して、日頃対応していただければなというお願いです。

【部会長】

ありがとうございました。連携とかも含めて、ちょっと書いていきたいと思います。

ここで特に意見がなければ、359の災害用備蓄物資の充実にいきたいと思います。

【事務局】

すみません、先ほどの1個前の事業もそうだったんですけども、その他意見・感想の欄のところについては、これも基本的には採用していくというふうなことでよろしいでしょうか。例えば、1つ前に戻って大変恐縮なんですけど、357の女性の視点のほうの事業のその他意見・感想欄に、避難訓練では実施不足であるというふうに書いていただいているんですけども、これは採用すると。

【部会長】

採用でいいと、どうでしょうか。

【委員】

ええ、ぜひ採用していただければと思います。というのも、やはりこの女性、いろいろな意見出ておりましたけれども、さっきから出ております避難所開設キットを使用して避難

所訓練を行っているのが、約半分ぐらいじゃないかなと思うんですね。ほとんどがまだ説明だけに終わっている。区から来て、こういうものがありますっていうふうに説明だけに終わっている。本来は、自分たちがそれを引っ張り出して、自分たちが運用していかないと、なかなか活用できないんですね。

開設キットの緑の部分の最初にも、女性相談窓口の設置だとか、女性専用スペース等の設置だとか、衛生管理、安全・安心の確保だとか、いろいろそういう女性に対する配慮とかも結構詳しく載っているんですね。けども、これ、実質的に使ってやらないと、それができないんですね、説明を受けているだけでは。その中の女性や子育て中の世帯に配慮した避難所運営の中にも、間仕切りを活用したスペースをつくるだとか、授乳室を設置するだとか、女性用は着替え室を確保するとか、洗濯場の設置と管理とか、そういうものも載っているんですけども、これを活用されていないのが現実だなと。

実際に私の参加した防災訓練もそこまでやっていませんので、やってほしいなという要望を込めて、ここに書かせていただきました。

【部会長】

357 なんですが、実施不足であるだとちょっと強い感じなので、実施不足であると感じますとか、そんな感じにして。実施不足であるかというと、ちょっと断定調になっちゃって、外部評価委員として、実施不足であると感じられますぐらいでいいでしょうか。訓練ちゃんとやらないと、血肉にならないよみたいな言い方に。

【委員】

本来でしたら、避難所運営協議会において、そういう女性のスタッフもどんどん入ってきて意見を言っていたきたいというのが本音ではありますが、大体男性が中心になってしまっている場合が多いので、女性は、やっぱり女性の意見をしっかり取り入れられるように、運営する側のほうに入ってきていただきたいと切望しております。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

358 のその他意見・感想なんですが、コピペはやめていただきたい、との意見は最後にまとめる形で、もうちょっと言葉を選んで書かせていただいて、セルフプランの実例を見たい、のところは意見なんで、ちょっとここは削らせていただいて、要配慮者の自宅保存用にある、これ、黒くなっている、文字化けか何かでしょうか。

【委員】

すみません、これは、いただいた資料にセルフプランのコピーがあって、そこに書いてあった見出しを並べたんですけども、要は、在宅のときはいいんですが、それが、実際あんしん手帳は見えていないので、実物が分からないので、そこにこれが載っているのかどうかというのが知りたかったんですね。

【事務局】

今日、持ってきました。

【委員】

ありがとうございます。

これはこの間、これは多分皆さんもお持ちのセルフプランなんですけれども、これはとてもいいことが書いてあるんですが、先ほどから何回も言っているように、いざというときに、これが頭に入っているわけではない。やっぱり手元にあって、見て初めて、ああ、そうだったっていうことが多いと思うので、これがあんしん手帳というのを、これ、今見せていただいたんですけれども、多分ここにはこれらのこと書いていないですね。

【事務局】

今、委員が書いていただいているのが3つあるんですけれども、地震が発生したときという、一番最初に書いてある注意事項みたいな諸々、これはあんしん手帳には書いていないです。

2つ目の四角の避難行動の流れという欄が、セルフプランのほうで避難行動の流れというのは、まず近くの公園、いっとき避難場所に行きましょうとか、広域避難場所は近くはここですというような、それぞれその人にとっての一番近い避難場所を書いておくものなんですけれども、最初ここへ行って、次にここに逃げて、最終的に避難所に逃げるといったのが書いてあるんですけれども、これについてはあんしん手帳のほうに記載できるようになっています。ただ、セルフプランだと、1か所目と2か所目と3か所目の違いというのが、火事があったときには、まずここへとか、そういうのが細かく書いてあるんですけれども、あんしん手帳にはそれがなくて、最初に行くのはここ、次に行くのはここという場所だけを書くような感じになっています。

3つ目の災害用伝言サービスについては、背表紙というか、裏のところにリストとして書いてあるというような感じになるので、ある要素とない要素があるというような感じになっていますね。

【委員】

すみません、この一番最初の地震が発生したときというのが、外出中の場合と在宅中の場合と分けてあるんですね。やっぱりこれって持ち歩くべきじゃないかなと。要は、これだけだと、外にいたときに、今外だけどうしよう、デパートだ、エレベーターだってなったときに、やっぱりパニックになると思うんですね。

なので、すごくいいとは思いますが、これぐらいの大きさだと。ここにもうちょっとこういうものも入れていただければなと。やっぱりこれも記入しなきゃいけないような内容なので、そこら辺もフォローしていただければなというお願いです。そのようにしようと。

【委員】

あれがセルフプランなの。

【委員】

これは多分、最初にもらったものが、いろいろ赤字で入っているんですけれども、最初に

いただいた資料、コピーされていた資料の中に、この赤字の注意書きみたいなのが入っているだけで。

これはすごくいいんですけれども、これ、在宅時にはいいんでしょうけれども、これを持ち歩くのはちょっと、また折りたたんでってなっちゃうので。せっかくこういうものを作っているって書いてあったので、これに入っているのかなというのを知りたくて、ちょっと質問形式で記入したんですけれども、入っているものと入っていないものがあるということなので。

備蓄品リストについては、これはもう出先のときはどうにも関係ない要素なので、これはなくてもいいと思うんですけれども、やっぱり出先で何かが起こったときに、皆さんパニックになるのは分かると思うんですね、非日常なので。そのときに、何か心のよりどころというか、これを持っていれば、何かあったときこれを見ればいいんだっていうのが、やっぱり1つの心の安定剤にもなると思うので。

【委員】

それが、あんしん手帳というやつですか。

【委員】

そうらしいです。これは、ちょっと初めて見たので、また皆さん、見ていただきたいと思うんですけれども。

なので、ちょっとそこだけ。できれば、もし今度改訂するのであれば、出先の部分というのが大事なので、それを載せていただきたいな。

【委員】

この外出中の場合。

【委員】

そうです。要は、家の中にいるときは、それを見えるところに置いておけば済む話なんですけれども、とにかく出ているときが一番大変だと思うんですよ、外だと。しかも、近場とかならいいんですけれども、遠方に行っているとか、たまたま、高齢者なのでそんなに頻繁に出るとは思えないんですが、施設に行っているその途中だった、親戚のところに行ったとか、いつ何が起こるか分からないという中で、せっかくいいものがあるのであれば、もうちょっとそこに、必要なものを入れていただきたいなっていうことなので、次回の改訂のときにというお願いで、教えていただければと。

【委員】

これは、どこで配っているんですか。

【委員】

送るんですよね。

【事務局】

そうですね。ヒアリングのときに、もともとはセルフプランの新規の対象者に送るときに、一緒にほかに送っているものは何ですかという質問に対して、そういうものを送っていま

すというところだけで、説明があったので、実物を。

【委員】

そういうやつか。だから、一般の人には来ないんですよね。

【事務局】

そうですね。

【委員】

要支援者っていう。

【事務局】

そうです。

【委員】

要配慮者に配られる。

【委員】

これ、要配慮者プラス、今度要配慮者を一緒に見ている人も同じようなものを、要配慮者だけですかね。

【事務局】

そうですね。中身については、一人一人の特性というか、例えば、耳が不自由な人とか、パニックになってしまう人とか、そういう特性に合わせて、自分で自由にカスタマイズできるようになっている形なので、もしかしたら支援者の方、民生委員とかの方は、こういったものがあるというふうな、それこそ記入見本みたいなものはお持ちかもしれませんが、個人個人で持っているのは、基本的には要支援者の方かなというふうに思います。

【部会長】

要望の形としては、携帯用あんしん手帳の次回改訂の際に、必要事項の整備を図られたいぐらいな感じでいいでしょうか。

【委員】

外出時というのを書いていただきたい。要は、持ち歩くというのを前提で、内容をまとめていただきたい。要は、家にいるときのことは省いてもいいと思うんですよね。とにかく持ち歩くときに、何を必要なのかということを入れていただきたい。

うまく伝わっていますかね、ちょっとすみません。

【事務局】

あんしん手帳自体は持ち歩きを想定しているものだと思うので、次回改訂の際に、例えばセルフプランの地震が発生したときの外出中の対応なども、外出中に必要と思われる情報の整理を図ってほしいみたいな、そういった感じでよろしいですか。

【委員】

そうです、はい。

あと、地震だけじゃなくて、今ほかの災害も懸念されていますよね。例えば、大雨とか台風とかありますよね、線状降水帯とか噴火とか。そういうのもできれば、簡単でいいので、

例えばパニックになったときに、地下にいたらとにかく上に上がりなさいとか、高いところへ避難しなさい、地震だったら水平避難じゃなくて垂直避難でもいいですよみたいな。新宿区には海がないですけども、海の近い方もいれば、河川も、神田川とかもあって、昔と違って今は氾濫はほとんどしないですけども、そういうのも考えたような内容で、ぜひ見直しを図っていただきたいなっていうお願いです。

【部会長】

見直しには、そういった事項を検討されたいみたいな形でお願いできればと思います。

委員の最後の要配慮者災害用セルフプランの作成送付のみならず、のところは、必要だと考えますような形で作成をお願いできればと思います。

359の災害用備蓄物資の充実なんですが、こちらの適切が4人で改善が必要が1人なんです、こちら東京コロニーの説明がたしかあったと思うので、お願いできますか。

【事務局】

359の事業については、現地視察の後に委員から、視察した備蓄倉庫の中にあった物資のほとんどが、東京コロニーという同一の事業者から納品されたものだったようなんだけど、どうしてですかというようなご質問をいただいております、ちょっとそちらを皆様のほうにも回答内容を補足をさせていただきますと、東京コロニーという事業者のほうから確かに多く備蓄物資を購入をしているんですけども、まず、事業者の選定方法についてですが、こちらは事業者は入札で選んでおりますので、単純に価格で決まっているというような形になっております。

そのやり取りを踏まえてのご意見というふうな形になっているかと思っておりますので、ご意見等に対する補足、何かありましたらお願いします。

【委員】

入札なのでというのは理解しましたが、ただ、じゃ、入札の要件はどうなっているかで、こういう特殊な備品とビスケット、ミネラルウォーターがセットになったの入札とかになってくると、あんまり多分、ほかの業者が手を挙げにくいのかなと思ったんですね、その回答を見た後で。なので、実はそこまで、入札の条件がどうなっているかまでは把握せずに言っているんですけども、例えば、見たビスケット、グリコのビスケットとかミネラルウォーターとか、ああいうものとはいうか、いわゆる市販の食品だとかミルクとかという部分と、あと、調べたら、この東京コロニーはこういう炊き出し用バーナーとか、そういう災害用品を福祉工場で生産されているな団体らしくて、そういう製品と一般的な食品がセットで入札要件になったら、ほかは手を挙げにくい、ちょっと繰り返しになりますけれども。

なので、これは入札要件を確認してからのほうがいいとは思うんですけども、ビスケットとかミネラルウォーターだけとか、食品分類だけとか、そういうふうなものに変えて、いわゆる納入価格を下げるだとか、あとは複数業者と取引をしておいて、あんまり特定業者に偏らないとかということをしたほうがいいのではないかなと思いました。

【事務局】

複数の事業者に分けるというのは、入札をやめるというようなイメージでしょうか。

【委員】

ミネラルウォーターだけとか、極端な話ですけども、結構特殊なテナントだとか何とかというのは、多分東京コロニーさんしか納入できないと思うんですけども、食品部分とかになると一般業者でも手を挙げやすいと思うので、そういうことをされてはいかがかと思った次第ですけども。

【委員】

私、今の話初めて聞いたんで、コロニーさんのやつ分からなかったけれども、私も何か複数業者から取り入れるメリットっていうのは高いと思いますね。それはなぜかという、東京コロニー1社だと、何かのときにリスクがありますよね。だから、どちらかが例えば駄目でも、もう一社できるとか、そういう複数から取り入れるというのは、価格と入札もあるけれども、いざとなったらリスクヘッジになるんじゃないかなと思って、僕も複数事業者というのは、今初めて聞きましたけれども、そのほうが賛成ですね。

【委員】

これ、多分東京福祉法人というのが、このコロニーっていうところですか。

【部会長】

障害者の方が勤めていて、障害者雇用の推進みたいなのでやっているのがコロニーっていうところなんですけれども。

【委員】

実は、消火器を数か月前に買い換えたんですよ。区があっせんしている消化器というのは約7,000円ぐらいするんですね。私は個人的に業者、お店の名前はあんまり言えませんが、買いに行ったら5,000円前後なんですね。だから、区があっせんしているのが7,000円ぐらいで、個人で買いに行ったら5,000円で、プラス、古い消火器を持ってきてくださいと。持っていったら、買ったのと新しいのとで引き取ってくれるんですね、古いのをね。

ですから、何かこの区があっせんしているのは割高なのかなという気も持ってしまったんですけども、どうなんですかね。

【委員】

だけど、入札で決めているから一番安いんでしょう、今のところは、このコロニーさんに関しては。

【委員】

ほかの区もそうですけれども、大体ここですよ。

【委員】

分かんないですけども。

【委員】

私が言いたかったのは、価格の面もあるけれども、いつその会社がなくなるか分からないから、リスクヘッジのために複数にしたいという観点も必要なんじゃないかなと思ったと、

そういうだけです。永遠に永続する法人ならいいけれども。

【部会長】

全体が見えないんですけれども、例えば、令和5年度に更新する備蓄は、その年の全部コロニーが落として、令和6年度は全然違う会社が落として、たまたま行った会社は、令和5年度に落とした、更新する事業所とかがここだったら、その倉庫はコロニーばかりだったとか、ずっとコロニーが続いているとか、ちょっと分かるでしょうか。

【事務局】

具体的に、年度ごとに何回入札をして、どの事業者がその都度落としているかというところについてまでは確認がないんですけれども、今の区の備蓄品の中で、東京コロニー以外から購入した備蓄物資というのも一部含まれているというふうな回答ではありました。

【部会長】

たまたまその年コロニーなのか、ずっと圧倒的に、障害者雇用なんて人件費がどうしても安くて落としやすいところはあると思うんですけれども、納品したりとか、ちょっと全容が分かりづらいですね。

【委員】

部会長、今の段階、私たちのレベルでは初めて聞いたから、これ以上議論進まないから、今言われたことは再度質問しましょうよ。

【部会長】

こちらの件は、概要でちょっと聞く形で、ペンディングというとなんなんですが、回答次第でまた、ここに盛り込む形でいいでしょうか。それ以外だと、適切でいいですか。

【委員】

はい。

【部会長】

適切に一旦評価をさせていただいて、コロニーがどのぐらいのシェア入っているのか、毎回ずっと続いているのかとか、ちょっと概要が分かれば、ちょっと制度が大変で、毎年全部出すとかというと大変かと思うので、状況を全員に分かるように教えていただければと思います。

それ以外は適切で、ここもまとめるような形でよろしいでしょうか。

次にいって、今後の取組の方向性に対する意見ですけれども、ここも、これまでのやり方は間違っていないという意味を感じますって、これ何か感じられることがあると。

【委員】

すみません、ちょっと何のことを言ったのか忘れたので、削除して構わないです。質問のときの答え方が、何かそういうふうに感じたということですね。

【部会長】

この方向性に対する意見、ほかは大体提案のような取組時期だとか日数だとか場所によって、更新したりとか適切に対応していただきたいという内容かと思うので、こちらもちよ

っとまとめるような形でお願いできればと思います。

その他意見・感想なんですけど、コピペはやめていただきたい、の意見と最後にまとめて、新宿駅周辺、これは。

【委員】

これは、私、何度も言っているんですけども、新宿区は新宿区で備蓄そろえているって満足しているけれども、結局周りの病院やデパート、それぞれみんな持っているから、ダブっていたりしたらもったいないし、何かそういう過不足をもっと、情報共有していませんと、担当の所管の課長だか何かが答えていたけれども、自信持って言い切っていたけれども、何かもうちょっと情報共有ぐらいしたほうがいいと思いますよ、デパートとか。何か新宿区、自分たちのところだけ人数割して配備していますって言っていましたけれども、手間がかかるのかもしれないけれども、多分周りのデパートや企業も新宿区と連携したいと思っているんじゃないかな。僕はそう思いますけれども、そう思いませんか。

【部会長】

例えばなんですけれども、職員用にとか、自分のところのお客さん用に持っているのは言いたくないというところがあるかもしれないなって、ちょっと思っている感じです。

【委員】

そうですね。企業が自分のね、それ持っているんです。

だけど、もういざとなったら、あなたは新宿区役所の人だから、私は何々企業の人だからじゃないじゃないですか、ぐちゃぐちゃしちゃって。そのときは、地域全体でこれだけ持っていれば、新宿区役所にこれだけニーズあるけれども、足りないのは小田急から出してくれとか、伊勢丹から出してくれとかって、譲り合いができるんじゃないかなと思って、情報が分かれば。みんな何か自分のところだけやっていますだけだと。

【部会長】

お金の出どころとかがちょっと難しいかなって思っていて、いざというときは関係ないって考え方もあるんですけど。

【委員】

だけど、お金のことを言うと、逆に、無駄な同じものばかりみんな持っているかもしれないね、水ばかり持っているかもしれないし。本当に足りないもの、だから、それも無駄なのかどうかも分かんないじゃないですか、余っているのかどうか。

この間のたしか課長のヒアリングだと、新宿駅周辺の各企業が集まるっておっしゃっていたから、そうやって各企業、事業者がわざわざ集まるんだったら、その場を利用して、こういうものがあっているかという。お金って、それは後の問題だから、最初、無駄なものを集めていること自体が税金の無駄のような気がしますけれどもね。効率よく、何か周りの企業、何備蓄しているか私は分かりませんでいいんですかね。

【部会長】

逆に、小田急がこれだけあるからうちは買わない、いざというときは小田急にもらいに行

けばいいって考えたりすると困るかなって思っています。

【委員】

それは困るけど、新宿区としては助かりますよね。

【部会長】

それを、民間企業にお願いするっていうのは、ちょっと強制になるかなって思うので。

【委員】

何かそれが、何か無駄なような気がしますね。無駄って感じられませんか。新宿区は新宿区、企業は企業、みんなダブっていたり、物が。

私が言いたいのは、実際に譲れより、何をそろえているのかぐらいの情報ぐらいは共有したほうがいいんじゃないかって言っているんですよ。

【部会長】

それを民間企業に出せという感じですか。

【委員】

だって、この間の説明だと、そうやって事業者全員集めて団体、協議体をつくって、この新宿区役所の1階に拠点ができるとおっしゃっていたぐらいなんだから、備蓄何そろえているんですかぐらい聞けるでしょう。

【部会長】

それを出せっていう感じですかね。

【委員】

いや。出してください、教えてください。新宿区だって出せば、見せればいいじゃないですか。

【部会長】

ちょっと厳しいんじゃないかと。例えば、マンションにどれだけ備蓄があるか知りたいって近所の人々がやってきても、ちょっと教えられないってなりますよね。

【委員】

だから、今おっしゃったマンション、近隣の住民同士の話じゃなくて、行政と民間企業との話。だから、事業者と病院とか何かそういう、備蓄の情報共有というのは必要なんじゃないかなと思いますけれども。

【部会長】

賛同してくれるところはいいいんじゃないかと思うんですけども、ちょっと強制みたいなものとか制度化は難しいかなって思います。

【委員】

何かいま一つもったいないような気がしますけれどもね。

【部会長】

ちょっと、ほかの企業にまで強制は厳しいかなって思いますね。

【委員】

何か自分のところだけ抱えているだけで、何かこう。地域全体で足りないものが何か分からないじゃないですか。

【部会長】

ただ、それを強制的に教えるというのはあれですよ。

【委員】

何度も言うけれども、強制的にしろと言っているんじゃないで、だってそういう協議体があって、区役所の1階にそうやって各企業が集まる。だったら、いざとなったら、みんなで協力しなきゃ、私はこういうのを持っていますというのはね。協力しないんですかね。私が何を持っているか、新宿区には言えませんというんですかね。

【部会長】

企業の場合は徴発するような考えにならないかなって、ちょっと思う感じですね。

【委員】

徴発になりますかね。企業だって助かる面もあるんじゃない。

【部会長】

助かる面もあるけれども、教え合うことで、これ隣のビルにたくさんあるから買わないって始まっちゃうと。

【委員】

それは、小田急とJRと似たような会社に聞けばそうだけれども、僕が言っているのは、行政とそういう企業との、大きな企業との連携が、連携というか情報共有をしてみたらどうかなという提案なんだけれども。どう思いますか。

【委員】

企業は、自分たちの存続計画というのをつくっていて、基本的に従業員のために約3日分ぐらいは最低備蓄しているんですよ、水も含めて、カンパンだとかそういう食料だとか。だけれども、お客様というのは、特に百貨店とかそういうお客様が来た場合は、お客様のいざというときの分ぐらいはあるかも分かりませんが、基本的には従業員のためというのが主なんです。

基本的には区は、地震が起きて1日、2日分ぐらいは区が備蓄しているんですよ。その後はというと、今度は東京都が、3日、4日分は東京都が備蓄したものを配付すると。その後はとなったときには、今度は国がとか、地方自治体と契約しているところとか、いろいろとあるんでしょうね、そういうところと、やっぱりお互いに支援し合うというような状況になっていると思うんですね。

だから、企業に対して、社員以外の分まで備蓄しなさいとか、融通してだとか、それはちょっと無理じゃないかなと思うんですけども、いかがですかね。

【部会長】

私もその考えですね。

【委員】

いいですか、すみません。おっしゃることもよく分かるんですね。地域で無駄なく、効率よく備蓄をしましょうというのはすごくよく分かるんですけども、現実、すごくそれって難しい、ハードルの高い話だと思うんですよ。なぜかという、やはり同じデパートさん、幾つもありますよね、新宿駅の近辺に。そうすると、やはりさっき部会長がおっしゃったみたいに、どここのデパートさんは何を持っているから、うちはこれは買い控えましょう、代わりにうちはこれを持ちましょうというのが、お互いに言っちゃうと、更新をちゃんと、ローリングストックでしていけばいいんですけども、万が一その会社が、そのデパートさんが、たまたまローリングストックを怠って期限切れでしただけになったら、使えなくなるわけですよ。そうすると、自分のところも困るけれども、あてにしていたほかのデパートさんも困るような事態にもなるので、やはりそれ、情報共有をしてというのは、ものすごく難しいと思うんですね、現実、理想ではあるけれども。

なので、やはり、まず自助というのが原則だと思うんですよ、家庭でも企業でも。さっきおっしゃったように、新宿区で3.11の後に各企業さんとかマンションさんは、在宅避難とか企業の方は企業にとどまりましょう、家に帰るのはちょっと待ちましょうというふうになって、各企業なりマンションで備蓄を持ちましょうということを推奨されていたと思うんですね。なので、やはり自助が前提なので、あまり区とか都とか国とか、もちろん出先とか家がつぶれたとか、そうになったら頼るしかないんですけども、家がある、ぐちゃぐちゃになってもまだ住める、とどまれるのであれば、やっぱり自分たちで最低限の備蓄を持つという方向にいくべきじゃないのかなと。それが一番簡単で、誰でも始められて、自己責任で命を守れると思うんですね。それが駄目なときに、よそをお願いするというのが次になるので、やっぱりちょっと現実的に難しいだろうなというのは、すごい思います。

【委員】

理想であって、現実的ではないという感じですかね。

【委員】

うん、難しいと思います。

よっぽど仲よく、例えば、親戚とかお友達とか親友とか、本当に仲のいい人たちだったら、お互いに話をして、あなたのところ駄目ならうちにいらっしゃい、うちが駄目なら行くねっというので、協定じゃないですけども話ができていて協力し合うというのは可能だと思うんです、それは比較的。

ただ、そうじゃないと、隣の人から急に、うちに水ないので水くださいって言われても、うちももう自分のところの水しかありませんと、うちも自分のところで3日分もつかどうかなのに、隣にあげられるかという、ちょっと厳しいですよ。それはお互いだと思うんですよ。それが、やはりデパートさんとかそれぞれの企業さん同士の関係と、大きさは違いますよ、規模は。規模は違うけれども、個人同士なのか企業同士なのかというので、全く同じだと思うんですね。

たまに、避難所でくれくれ問題というのを聞きますか。

例えば、食料品とか子どものミルクとかおしめとか、そういうものを持って避難所に行ったときに、避難所によっては、何持ってきたの、ああ、じゃ、それ頂戴、出してって言って、無理やり出させるらしいんですね。それを再配分するからとかいう名目で取り上げるっていう避難所があるというのを聞くんですね。

また、取り上げなかったとしても、避難所のスペースって結構オープンじゃないですか。間仕切りがあっても、多分低かったり、上からのぞけたりとか、あと音も聞こえてるでしょう。そうすると、何かちょっとおいしいお煎餅とかを食べていると、周りから、ああ、お煎餅あるんだ、頂戴っていうので、みんなから求められるんですって。最初はせっかくだからって分けていたら、周りがどんどん欲しがって、最後、自分のところ何もなくなったとか、そんな状態もあるというのは、結構避難所あるあるなので、やはり自分たちの身は自分たちで守る。だから、お煎餅を持っていかないと、カレーとかにおいの強いものを持っていかないと、そういうのが備蓄のある1つのルールというか、常識になりつつあるというのでも聞くので、本当に自分たちの身をどうやって守るかというのは考えなきゃいけないなと。

【委員】

分かりました。理想はそうだけど、現実には難しいと、理解しました。

【委員】

と思います。すみません、そんなふうにはずっと思っていました。

【部会長】

そうしたらそこは、地域全体の情報共有も検討されたい、ぐらいな感じで。

備えの重要性についてはさらなる周知を望みます、のところは残して。

【委員】

でも、望みますという言い方でも駄目ですね。

すみません、言い回しがちょっとあれだったんですけれども、要はこれも、情報発信の1つとして、皆さんが家で在宅避難ができるような心構えなり備蓄を持ちましょうと。区のほうからもおにぎりとか簡易トイレでしたっけ、配っていただいたりとかしたので、それも1つの啓発活動だというふうに伺ったんですけれども、それ、送られてきたとき、私は最初、はっと思った、正直。えっ、2食、おにぎり2つみたいな、トイレ4個っていう、確かに有り難いんですけれども、だからどうしようみたいな。ちょっと中途半端かなという印象は最初受けたんですね。

なので、もっとそれを、せっかく送るのであれば、もうちょっと避難所開設キットじゃないんですけれども、備蓄をしましょうキットみたいな、もっと啓発を促すような感じで送っていただいたら、もっと効果も高いのかなと。せっかくお金を使うので、より効率的な働きかけなり発信なりをしていただきたいなと思いました。

【委員】

そうですね。やはり区が3億5,000万もかけて各家庭、全世帯に配付したのは、これは在宅避難のために各個人で備蓄してくださいという意味もあって、たった1日分だから、4回

分しかないので、やはりこれは自分で買い足さなくてはいけないというので、私も買い足しました。というように、やはり在宅避難はまず自助、自分の身は自分で守る、自分の家族は自分たちで守るというような、まずそこから始まるのではないかなと思います。

この備蓄品という項目ではございますけれども、本当にしっかりと、この前マンション防災の講演会があったときに、ちょっと私も参加させていただいたら、マンションの参加した人が、「俺たちは税金払っているのに、区が備蓄して用意するのは当たり前だろうみ、自分で揃えろなんていうのは承服できない、帰る」とか言って、そういう人もいたんですよ。けれども、講演する人が、私たちは区の行政ではありませんので、最後まで聞いてくださいというふうにしたら、その人も納得されましたけれども。

やはりそういうふうに誤解といいますか、区が何かやってくれるだろうとか、やるべきだとか、そのようにあまりにも依存しているのも、災害が起きたときは、本当は自分の身は自分で守らなくてはいけないし、まず命を守らなくちゃいけないし、いつ大火災が迫ってくるかも分かりませんので、本当にそこらは自分たちで守らなくてはいけないという意味もあって、今この備蓄のきっかけとなるような、今配付があったもので有り難いなというふうに、私も感謝しております。すみません、以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

その他意見・感想は、今のような形でまとめたいと思います。

【事務局】

はい。書いていただいた意見のところについてなんですけれども、個別施策 - 2にある経常事業「在宅避難の推進」において、防災備蓄の重要性が啓発となることを期待するというふうに書いていただいているんですが、この在宅避難の推進という経常事業自体は、去年だけ突発的に、在宅避難啓発セットって区では呼んでいるんですけれども、携帯トイレとかおにぎりをお送りするために発生した事業だったので。

【委員】

事業が別ですね。

【事務局】

そうなんです。今年度はもうないのと、あと来年度以降、また復活するかも未定という形なので、この事業名の記載は一旦省略をさせていただいて、昨年度実施された全戸配付によって、防災備蓄の重要性が啓発となることを期待するとか、そういったような形でよろしいですかね。

【委員】

はい。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、372の災害訓練等の実施にいきたいと思います。

こちら、適切が2人で改善が必要が3なので、改善が必要にしたいかと思うんですが、やっぱり皆さん課題にされているのは、小中学校でやっているのに、中学生が参加していないというので、ちょっと課題に感じられている方が多いですね。

これ、ちょっと順番にご意見いただければと思います。

【委員】

もうその1点だけですね。毎年課題に挙げているのに、それが改善されていないです。

【委員】

私は2つだけ。防災訓練やったのは、令和6年は13か所、これは、全体の小中学校の避難所の総数からして低いんじゃないかというのが1つ。

それと、これも所管のヒアリングのときにも課長には言いましたけれども、目標値がないから、達成しているのか達成していないのか、客観が難しいということですね。何となくこれ、またこれ1つの企業に例えちゃうと、自分の会社の売上目標とか利益目標はないんだけど、とにかく頑張りましょうなんでしょう、これだと。とにかく頑張りましょうじゃ難しいんじゃないかと思って、これは改善した、目標自体がないことが、評価が難しいというだけじゃなくて、数値があったほうがみんな増えるんじゃないかな。自分たちが参加すればもっと目標に近づくとか、住民意識も高まるんじゃないかという点で、この2つが改善が必要と書きました。

【委員】

私も皆さんと同じような意見なんですけれども、結局、取組の課題のほうには、小中学生の児童・生徒と連携した訓練をする必要がありますって書いてあって、それがやはり、次のときも同じようなのが書いてあるんですね。結局、前から別の委員が言っていたと思うんですけれども、教育関連、教育委員会のほうがこれに加わっていないということを指摘されていたと思うんですが、この間のヒアリングのときも無理だっていうふうにおっしゃっていただきましたよね。地域が主体でやるので、そうすると、どうしても土日になってしまう、学校のほうと一緒にやれないと。児童は児童で避難訓練はしているというふうな表現だったと思うんですが、それが分かり切っていて、課題としてそれを継続すること自体がおかしいと。教育委員会と一緒にやれないというのが分かっているのであれば、課題の内容を変えるしかないんですよ。

なので、これも中途半端って言い方したらちょっとあれなんでしょうけれども、おかしいなと。ちょっとおかしいですよ、どう考えても、整合性取れないです。だから、これは絶対的に改善が必要だなって、私もこれに関しては書かせていただきました、来期以降は課題自体を変えていただくか、教育委員会と連携をして、児童・生徒も一緒に参加できるような日程なりを考えていただく、地域とそこをちょっと相談して、どっちかが譲るしかないですよ。だから、例えば今年は地域が譲って平日にしましょう、平日、児童を中心とした課題にして、それを実施しますと。来年は児童よりも地域の人を中心として土日にやりますと、児童さんでもできれば参加してくださいって、お互いが歩み寄るしかないと思うんですよ。

なので、こういう書き方をさせていただきました。

【部会長】

私、最初言っていなかったんですけども、やっぱり引取り訓練とか避難訓練やっている
ので、避難所開設は大人がやるから、小中学生はいなくてもいいんじゃないかと思ったんで
すけれども、自分で課題に書いていてやっていないのはおかしいよねっていうので、自分が
書いたんだから、目指さなきゃいけないのにやっていないというのは、ちょっと思いました。

【委員】

私も、一応適切にはしてあるんですけども、今後の方向性のところでは、やはり防災訓
練を学校が休日ではなく、平日や夜間の訓練も含んだ実施が必要だと思うというふうに書
いたんですけども、やはりいろいろな訓練を通してやってみないと、日曜日にやっている
と学校は休みと、生徒も親に連れられて参加する人以外は来ない、そういう状況になってい
るんですね。いろいろなことを想定した訓練も必要かなというふうに思いますので、防災訓
練の実施に関して一応適切とはしたんですけども、本来は改善が必要に近いと私も考え
ております。

【部会長】

じゃ、ここは改善が必要にして、小中学生の訓練参加の必要性を述べておきながら、それ
が進んでいないみたいな書き方で、評価の理由としたいと思います。そんな感じでまとめて
たいと思います。

【委員】

小学生は小学生で防災訓練はやっているみたいですね。団地で広い場所に避難したり、誘
導したりはしているようですけれども、町全体としての防災訓練に関わって取り組んでい
ないというのですね。

【委員】

そうですね。私、13 か所って少ないなと思ったら、学校独自はやっているんですか。

【委員】

うん、学校ではやっぱり、引取り訓練をはじめ、いろいろな形でやってはいるようすけ
れどもね。

【部会長】

消防法でやらないといけない感じで、もう絶対やっているはずですよ。

【委員】

じゃ、13 か所って少ないと思ったのは、町全体でということなのか。

【委員】

ただ、資料では10 か所でしたよね、学校名。小中学校名が10 か所で、ここでは13 か所
だったので、ちょっとあれとも思ったの、後からですけども。

【委員】

でも、少ないですよ。

【委員】

少ないかも。でも、そんな学校、今ないかも。統廃合されて、結構減っているの。今実際幾つなのか、まだちょっと調べていなかったですが。

【委員】

小中学校って、ちなみに幾つあるんですか、新宿区は。20 ぐらいはあるんですかね。

【委員】

だけど、ほとんどがやっていないとね、本当は。13 ってことはないよね。

【委員】

うん、少ないですよ。ただ、地域の問題ですよ。

【委員】

41 か所以上あるんじゃないかな。

いろいろと、防災訓練の実施の何々小学校、何々小学校って見るだけでも、40 以上は何か。

【事務局】

小学校が 29、中学校が 10 です。

【委員】

29 と 10 で 39。

【委員】

じゃ、3 分の 1 ですね。

【委員】

これは、改善が必要でいいんじゃないですかね。

【部会長】

うん、改善が必要でいいと思います。

【委員】

やはり、これ、一番最初のほうに書いたかな、防災訓練自体がやっぱりイベント型の防災訓練になってしまっているように、イベント型の防災訓練が多いように感じるんですね。この防災訓練のレポート、これ 10 か所しかないんですけども、大体見ると、やはり各ブースができていて、みんながグループに分かれてそこを回って見学して歩く。消火器だったら消火器を練習するだとか、炊き出しでアルファ化米というか、五目ご飯をできたらいただくとか、いろいろとあったりするんですけども、自分たちが何かをやってというのがなかなかないんですね。

だから、私も書きましたけれども、災害が起きたときの避難所というのは、本来は過酷なんです。もうそれこそ喧嘩があったり、女性もいろいろと被害を受けたり、いろいろな問題がやっぱり災害時で起きているんですね。なかなかそれが、明らかにしないようにしようという、それはテレビなんかでもあんまりそういう、盗難があったとか何とか、そういうのはあんまり報道しないようにしようというような協定があるようで、実際には本当に過酷

でサバイバル的な場合もあるし、二次被害で亡くなる方もいらっしゃる、そういう場所ですので、避難所がパラダイス風の場所では決してありませんので、在宅避難ができる方は在宅避難のほうがいいですし、在宅避難していても押し入られたり、いろんなものが強奪されたり、そういう状況にもありますので、本当にそういうのも含めて考えなくちゃいけないのかなというふうに思うんですね。余計なこと言いました、すみません。

【委員】

このテーマで大事なものは、おっしゃられたように、教育委員とか巻き込んで書いているから、私たちが言ったことが、危機管理課だけにフィードバックするんじゃなくて、教育委員会にも届くようにしてほしいですね、このメッセージを。読む人が、危機管理課だけが読んで、ああ、そうかで、危機管理課が教育委員会に相談する兆しがなければね。教育委員会とか、そういう巻き込む必要な人にもこれ、届くんではなかね。

【部会長】

その他意見・感想で、教育委員会等とも連携されたいと書いて書く感じでいいですかね。

【委員】

やっぱり学校が休みだから、学校の先生も一緒に参加、あんまりしていないんですね、校長先生が顔を出して挨拶するぐらいで。もっと教育に携わっている人たちも一緒に参加すべきだと思うんですけどもね。

【委員】

さっきと同じで、その他意見に書くだけで、教育委員会に届くんではなかね。

【事務局】

そうですね。こちらがこういうふうなご意見ありましたよというふうなことで、送れば。

【委員】

届けないとね。

【委員】

すみません、先ほどおっしゃっていたのは、意見をしたら回答をくださるって、先ほど緑の太い冊子ありましたよね。それは、こっちが、意見は教育委員会に出すんですか、それとも危機管理課のほうに、教育委員会と連携を取ってくださいというふうな表記をしないと駄目なんですかね。

【事務局】

教育委員会とも連携されたいというふうな意見としていただいた場合には、基本的には、まずこの事業の所管は危機管理課ですので、危機管理課にこういったご意見がありましたということを経営を共有した上で、ただ、危機管理課だけの判断で、じゃ、教育委員会と一緒にやりますというふうにすぐに回答できるものではないので、危機管理課のほうでお返事を作成するには、教育委員会と相談をしながら書いてくださいねという形で、両者とも合意の上の共同みたいな回答が上がってくるというふうになる想定ですね。

【委員】

ただ、そこで危機管理課が、いや、これはちょっと無理だと、教育委員会のほうに投げか
けずに、自分のところでシャットアウトするという可能性はないんですか。例えば、先ほど
申し上げたみたいに、課題自体が連携をするというふうになっているから、教育委員会と連
携してほしいという意見を出しますよね。でも、だったら、もう連携はやめようと、教育委
員会と連携しない方向でやっていこうとって、そこで終わらせるというふうな可能性は
ないのでしょうか。ちょっとそこも心配です。

【委員】

そういうふうな回答なくてもいいですよ。それは、聞いてみないと答えられないから。

【事務局】

必ず両者に情報が行って、そこで、危機管理課だけの判断で全て解決しないようには、こ
ちらも、そういったご意見あったこともお伝えします。

【委員】

分かりました、お願いします。

【部会長】

ありがとうございます。

今後の取組の方向性に対する意見のほうは、大体相反するようなのはなくて、活発に参加
してください、校長先生、PTAも参加してください、小中学生も参加してくださいで、参
加率が低くて残念とかいう形で、これもまとめられるかと思うので、まとめたいと思います。

【委員】

そうですね。この中で、その他の意見の中で私、書いたんですけども、3行目の区民の
町会・自治会の未登録者や未参加者、関心が低い者への対策を検討する必要があるというの
は、必要があると思いますでいいと思うんですけども、この前質問したとき、危機管理課
長は、町会に登録してくださいというふうにおっしゃっていて、そのとおりではあるんです
けれども、しかしながら、町会に登録していない方がかなりいらっしゃるんですよ。町会の
加入率が50%とか60%いていないんじゃないかなと思うんですけども、そういうのが
ある場合に、やはり町会に加入してくださいだけでは、町会に加入していても防災訓練に参
加していない人もかなりいらっしゃるんです。かなりというか、ほとんどいらっしゃる。

失礼ですけども、皆さんたちは防災訓練に参加されていますか。

【委員】

申し訳ないけれども、していません。

【委員】

していませんね。していらっしゃる。これが実状なんですよ。

【部会長】

私は町会に入ったことが一回もありません。お誘いもこないし、どこで入れるのかも分か
らない。入りませんかと言われてたら、入るかどうか。

【委員】

どうもすみません、申し訳ない。

【委員】

いや、別に、それが現状だと思います。

私も、町会には加入したり当然してはいますけれども、しかし、私の近所の人たちも、防災訓練にはほとんど行っていません。参加するお誘いもありませんし、今、回覧版も回ってきませんので、町会の掲示板にいついつ防災訓練がありますよというのが貼ってあるのがせいぜいですね。

ですから、そういうのも含めて、もっと改善すべき点があるんじゃないかなという意味もあって、町会員じゃない人のそういう防災に対する意識やそういうものに対してがあるのだということで、よその区の例を出してちょっと質問したんですけれども。町会に加入してくださいということでもあったんですけれども、そこらにも課題があるのかな。

町会も、やっぱり人材不足や担い手不足が進んでいて、やはりまとまりがもう、ちょっと崩壊状態になっているというような、そういうところも実はあるんじゃないかなと推測しますし、特にマンションの多いところは、今マンションの自治会が中心になっていたりしますので、マンションで防災訓練をやったとかいうのは、この避難所防災訓練のこういうレポートに上がってきていないのではないかなと。だから、実態が分からないんですよ。それも含めて、ただ、町会だけの防災訓練ではなくて、プラスアルファの何か施策が必要ではないかなと思うんですけれども、いかがですかね。

【委員】

私は参加していませんけれども、さっきも申し上げましたけれども、目標がないから、十分参加しているのか十分参加していないのかも分からない。自分が出ていないのにこんな偉そうに言えないけれども、目標に達しているのか達していないのかも分からないのは、目標がないからですよ。だから、例えば、その町会何割、仮にでも目標を上げて、今おっしゃられた目標に達していないということをみんなに伝えないと、僕は、もしかしたら出ていない人は、自分は出ていないけれども十分やっているなと思っているんじゃないですか。だから、目標値を仮にでも設定したらどうでしょうか。1つの方法です。

【委員】

そうですね。

【委員】

すみません、私も参加していないので申し訳ないんですけれども、意識はあるんですが、やはり掲示板を見てっていうのを怠っているので、いつやっているのかとか、そういう情報もない、取れていないというのが一番の問題なんですね。やっぱり今の情報過多の時代において、どんな情報が必要で、どこからそれを取るかという、そこがすごく難しいと思うんですよ。区報も見ますけれども、全部見ているかというと、ちょっとそこも難しい部分もあって、だから、それをどういうふうに発信、例えば、伝えたい側としてはどのように発信をしていくかというのが大きな課題であり、受け取る側、区民としては、どうやって自分が情報

を得るかという、それも、姿勢も大事だとは思うんですね。だから、そこをどうやってうまく調和させていくのが、今後の大きな課題じゃないかと思うんです。

災害については、テレビとかいろんなところでいろいろ言っていますので、何十年以内に何割の確率で首都直下とか南海トラフとか、よく話題にはなっているので、恐らく意識はどっかに皆さん持っているんですよね。ただ、それを日常生活の忙しさの中で、特に都会って大変じゃないですか。生き馬の目を抜くって言われるぐらい、いろんなトラブルなり情報なり、いろんなものがあふれて、娯楽もあふれて、その中で命を守るそういう情報をどうやって見つけていくかというのは、本当に大きな課題だと思うので、発信する側も受け取る側も意識をしっかりと持つことが一番大事なんじゃないかなって思うんですよね。

なので、ぜひこれからも頑張ってください。できる限り参加していきたいとは思っています。

【部会長】

ありがとうございます。区民の町会・自治会への未登録者や未参加者、関心が低い者への対策も検討する必要がある、というのに大体皆さんの意見入っているかと思うんで、これをちょっと強めな書き方というか、積極的に検討されたいとか、ちょっと強調した形で載せていきたいと思います。

376、ペット防災対策事業のほうなんですけど、こちらは5人とも適切で、大体もう皆さん満足、納得しているような書き方なので、評価についてはこれをまとめる形で問題はないかと思います。

今後の取組に対する方向性も、普及啓発のことを皆さんがたくさん書かれていて、あと、小型犬、同室で生活できるように配慮お願いします、とありますがこれは。

【委員】

新宿区というのは、皆さん家も土地も狭いので、大型犬を飼っている方は非常に少なく、逆に大型犬を飼っている方は裕福な方ですね、見てみると。家も立派だし、庭も広いし、車も2台も3台も入るような駐車場とか持っていて、警備会社もついているような、そんなところなんですよ。でも、実際に見かけるのは小型犬、特に本当にちっちゃなティーカッププードルみたいな、本当にちっちゃな犬を飼っている方が非常に多いと思います。

高齢者の方って、新宿区って結局独り暮らしの方が多いかと思うんですね、田舎と違って核家族化なので、すごい寂しい思いをして暮らしているんで、やっぱりペットを飼う方が多いと。そうすると、ペットがもう家族ですよ、その人にとっては。だから、歩けなくなったわんちゃんとかをカート、ペット用のに入れて押しているんですよ。わんちゃんが散歩ができないぐらい弱っていたりして、お年寄りはそれをつえ代わりにして歩いているんですよ。それを見てみると、やはり何かあったときに、困って避難所に行くのは、立派な家に住んでいるお金持ちの大型犬じゃなくて、年金生活をしているご高齢の方とか。若い方もちっちゃな犬を飼っていますよね。とにかく小型犬を飼っている方が避難所に行くケースが多いんじゃないかと推測しているんですね。

なので、餌とか全然用意していないっておっしゃってましたよね。だけど、ペットの餌

を飼い主が持っていくのは分かるんですが、ご高齢の方が荷物をそんなに持っていけるかというと、やっぱり厳しい面もありますし、はぐれるのも小型犬が多いかと思うんですね。飼い主不明のわんちゃんというのは、恐らく小型犬のほうが多いだろうと。なので、やっぱりちょっと小型犬を重視したというか、小型犬をメインにしたような備蓄というか、そういう配慮をしていただきたいというのと、災害時の非常時、非日常の中で、心のよりどころである、自分の家族であるわんちゃんを引き離すようなことはしないで、女性だけとか赤ちゃんのいる家庭をと、部屋を分けると思うんですけれども、そのときに、やっぱり小型犬を大事にしているご高齢の方を中心にしたような別の部屋もつくってあげて、室内で一緒に避難生活を送れるような配慮というのが、やっぱりご高齢の方の健康を維持するためにも必要じゃないかなと思うので、そこをすごく強く、私は望みたいと思います。

【部会長】

思いは分かるんですけれどもちょっと。

小型犬の定義だとか、猫はどうするんだとか、いろいろ出てくるので、ちょっと。

【委員】

そうですね。ただ、地域猫はいるけれども地域犬はいないので、やっぱりその辺で、猫は、だから、小さな犬と猫が主体の備蓄品をそろえていただければいいかなというのですね。

要は、言いたいことは、高齢者に、非日常になったときにメンタルを維持していただくために、ペットという家族と引き離すことはやめてほしいというのが一番の願いで、確かに爬虫類とかいろんなペットもいるので、そこら辺はどうなのかというのでこの間質問したけれども、そこに関しては難しいというのも分かるんですね。とにかく避難所に行く方というのはあまり、古い家に住んでいる方、イコール、ご高齢の方が多いという、これはあくまでも連想ゲームの推測なんですけれども、そういう関係から、小型犬とか地域猫というのも飼い主不明なので、そこら辺をメインとした、犬と猫は分けるしかないと思うんですけれども、そういう室内での避難を可能にさせていただくような方向性をちょっと考えていただきたいなという。

【部会長】

ペットと離れがたい精神状況の方への配慮をお願いしますとかみたいな感じですかね。

ありがとうございます。

【委員】

やはり、ペットは飼っている人には家族同然だったり、そういう思いがあるので、本当に引き離したくない、一緒にいつも避難したいという思いはあるんですけれども、私がここに意見として書いたのは、防災とはちょっと離れてしまいますけれども、やはりふだんのペットの飼育マナーですね。これが、大部分の方は守っていらっしゃると思うんですけれども、一部の、散歩するのにもふん尿の処理をしない方とかいるんですね。やはり飼い主はかわいいんでしょけれども、そういうマナーのない人が迷惑をかけている。だから、そういう人たちに徹底して、やはりペットを飼うマナーを教育をしていただきたいと思いますし、犬で

もリードをつけていないで散歩させる、抱っこをしながら散歩をさせたりする人もいますし、人によって様々だと思うんですけども、避難所ではやはり動物アレルギーの人も実際にいますので、そこらがどうなんだろうな。

今、おっしゃったように、ペットを連れて一緒に避難所の中で、家族と一緒にいたいと、そういう感情も分かるんですよね。この前、ちょっと質問したら、ある人は、ペットを連れて避難ができる施設を用意したらどうだと。だから、普通の避難所じゃなくて、ペットと一緒に避難できる避難所みたいなのを指定したらどうだというような意見が出て、ああ、それもそういう考えがあるんだなと思いました。現実には、やはりペットは外ですよ。家族と一緒にには入れませんし、外でつながれると。そうすると、やっぱり犬同士ほえ合ったり、結構大変だと思うんですよ。そういうのもありますので、やはりもうちょっと、ペットが大事なのであれば、そこらも含めて、考え方をちょっと変えるのも必要かなと思うんですね。

【委員】

これ、前おっしゃっていたけれども、この間私も言いましたけれども、結局この問題はマナーとルールの徹底に尽きるんですよ。何かいろんなことを言っても、この問題、尽きるんだと私は考えるんですね。

その中で、この間も申し上げましたが、新宿区って7人に1人は外国人、人口が。それで、この間の課長の話では、パンフレットは確かに作っていますよ。だけど、あらゆる国のパンフレットは無理だから、ちょっと書きましたけれども、動画、YouTubeとか、外国人でも目で見て分かるマナーとルールを発信しないと、外国版のパンフレットをあらゆる言葉で作っていますっておっしゃっていたけれども、それでマナーとルールが外国人に徹底しないんじゃないかなと思って申し上げます。

【委員】

最後に意見言ってもいいですか、すみません。

本当におっしゃるとおりで、マナーが物すごく悪くなっていて、それは昔と、10年前とかと比較すると圧倒的に悪いんですよ。エチケット袋を持たない散歩をしている方、持っても、何の処理もしない、あくまでもアクセサリーという方もいて、本当にマナーが悪いのはほとんど、今はどうだろう、2割、3割ですかね、マナーよく処理している方って。なので、これは本当に今後の課題ではあると思います。

外国の方に対しても、どうやって周知して、それこそアレルギーの方とか飼っていない方が気持ちよく一緒に避難できるかというのは、本当に大きな課題だとは思うんですよね。だから、それをきちんと区のほうで、やっぱり多言語で発信するだけではなく、本当にこれは国レベルだと思うんですけども、日本に来るときの最低限のマナーなりルールなりを守っていただくような指導とか方向性とか周知徹底を図っていくというところまで話はいつてしまうんじゃないかなと。

ただ、さっきおっしゃったような、ペットを連れての避難所、要は福祉避難所と同じような考えですよ。それってすごくいいアイデアだなと思いますし、今後の1つの何か光が見

えたような気がしました。

【部会長】

ちょっと、来てもらって、すぐ終わっちゃうかもしれないんですけども、残りは明日でよろしいですか。

【事務局】

そうですね。明日、そのテーマ全体の評価の取りまとめと、行政評価のやり方自体のご意見、感想と、あと明日、もし明日やるということであれば、先ほど備蓄のときにやった、東京コロニーからの入札がどういうふうになっているのかというところ、その辺の部分は会議までにお伺いして、改めて、今一旦仮で適切というふうにされていたかと思いますので、そこのところを明日、再度改めて確認することができるかなとは思いますが。

【委員】

分かりました。

【部会長】

皆さん、明日大丈夫でしょうか。

【委員】

大丈夫です。

【事務局】

すみません、最後に1個だけ。先ほどのご意見で、ペットの避難所、それ専門の避難所をつくるのもいいアイデアというふうになっていましたけれども、それは意見として記載しますか。今、文章としては記載がないんですけども。

【委員】

そうなんです。ここはまだ載っていないので、起こしていただければ、なおいちいと思います。

【部会長】

すみません。それでは明日、また2時にここに集合ということでよろしいですか。

【委員】

分かりました。

< 閉会 >